かしこいカラスの本当のひみつ

日時：2023 年 11 月 18 日（土）13：30～15：30

会場：我孫子市生涯学習センター アビスタ ミニホール

後援：公益財団法人山階鳥類研究所

開催趣旨

何かと厄介者扱いされるカラス。どうしてあのような行動をとるのか？身近にいるカラスですが、実はその習性（生態）は謎だらけで、理解に苦しみます。そんな皆さまのために、鳥類学の専門家である柴田佳秀さんに、「かしこいカラスの本当のひみつ」を解き明かしていただきます。「カラスのジョーシキ」を知って、トラブルを未然に回避しましょう。

合わせて、手賀沼の水質の変化などの現状について、またそれらに呼応し手賀沼の生態系から影響を受ける水鳥の最新動向の報告を行いました。会場内では、より詳しくお伝えするために我孫子野鳥を守る会による「手賀沼の水鳥調査 最新動向」のパネル展示を実施しました。

次　第

司会　川野美津子（NPO 法人せっけんの街）

13：30　開会

挨拶　手賀沼流域フォーラム実行委員会　委員長　八鍬 雅子

報告「手賀沼の現状について」

千葉県水質保全課　湖沼水質浄化対策班　班長　渡邉 勝さん

報告「手賀沼の水鳥の最新動向」

我孫子野鳥を守る会　副会長　相良直己さん

14：00　講演「かしこいカラスの本当のひみつ」

科学ジャーナリスト　柴田佳秀さん

15：30　閉会

講師プロフィール　柴田佳秀さん

科学ジャーナリスト・サイエンスライター。柏市在住。1965 年東京生まれ。東京農業大学卒。番組制作会社に籍を置き、テレビ自然番組のディレクターとして活動を開始。生きもの地球紀行などの NHK 自然番組を多数制作。2005 年からフリーランス。専門は鳥類学・昆虫学だが、魚類や両生・は虫類など、生物分野ならばなんでも。なかでもカラス研究は 20 年以上ライフワークとして続けている。**『街・野山・水辺で見かける野鳥図鑑』**（日本文芸社）、**『おもしろ生き物研究 世界のヘンテコ鳥大集合』**（子どもの未来社）、**『カラスのジョーシキってなんだ？』**（子どもの未来社）など著書多数。

講演「かしこいカラスの本当のひみつ」　柴田 佳秀さん

参加者は、収容人員ギリギリの小中学生８名を含む 70 名となりました。講師の柴田さんのユーモアたっぷりのトークで、会場は終始和やかな雰囲気に包まれていました。

◆まずはいきなり参加者の皆さんへ「カラス検定」です。

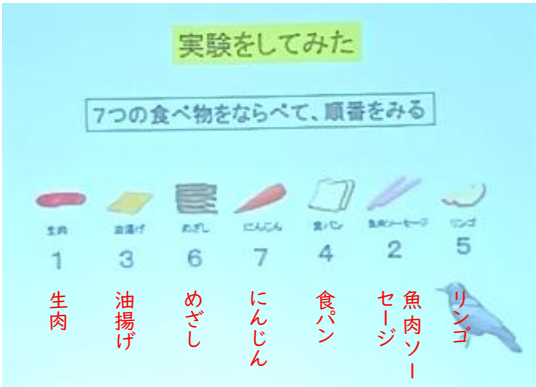
第１問　カラスの死体を見ないのは UFO が持ち去るからである。
第２問　カラスはいちど恨みをもつとどこまでもストーカーのように追い回すようになる。
第３問　カラスが線路に置き石をしたのは、以前、巣を JR の人に落とされた復習のためである。
第４問　カラスにはボスがいて統率よく行動している。
第５問　カラスはゴミの出る曜日を知っている。

答えは、すべて「×」！「**一種の都市伝説**」とのこと。全問正解は難しく自分の常識が覆され、どんどんお話に引き込まれていきました。

◆カラスがいかにかしこいか！

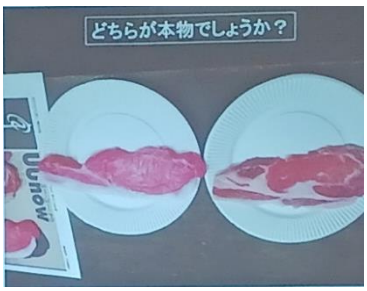
「**驚異的なカレドニアガラスの行動**」の紹介がありました。細長い容器の水に浮いた餌をとるために、石を入れると餌が上昇することを知り、嘴が届かないと次を入れ、ついにゲットするのに、会場では驚嘆の声が。そんなカラスと上手く付き合って行くには、「**カラスの常識」を知ることが大事**。

◆ゴミ袋をあさるカラス、本当になんでも食べるのだろうか？



自分が疑問に思ったことを自分の目で確かめて解決する柴田さん、身近にいる２種類のカラス「ハシブトカラス」と「ハシボソガラス」のうち、たいてい街なかで見られる「**ハシブトガラス**」で**好き嫌い実験**しました。カラスがどの順番で食べるかを観察。結果は、１位 生肉、２位 魚肉ソーセージ、３位 油揚げ。**カラスは「あぶら」が大好き！**ゴミ袋の中身は「1955 年から 2000 年あぶらの割合が３倍に」。人の食生活の変化、飽食がカラスを呼び寄せ、袋の中から大好きな「あぶら」を探し出すために、カラスはせっせとゴミを散らかす。人間の「**おなかの肉がふえる⇒カラスがふえる**」とのこと。

◆どうやって食べ物をみつけるのか？



カラスは、人間よりも色を見分ける能力があるそうです。人の目は赤・青・緑の３原色で見ているけれども、カラスの目は赤・青・緑に加え**紫外線を認識**できる。ゴミ袋の中の大好きな「あぶら」を目で確認している。食品サンプルの生肉と本物は紫外線があたっているとほぼ100%の確率で見分けられるそうです。恐るべし！

◆カラスは黄色が嫌い？　これも都市伝説

カラス対策用に**紫外線をカットする顔料が練り込まれたごみ袋**が開発されました。それが黄色だったことから、カラスは黄色が嫌いと間違って広まったそうです。ネットをただ黄色くしても、カラスに対して効果はないとは…。

◆東京のカラスが増えた原因

分別が徹底されなかったり、袋の中に危険物が入っていたりしたため、中身が確認できるように黒色から**半透明のゴミ袋**を使うようになりました。袋の中が一目瞭然となり、カラスの食べ物探しがずっと楽になり、その結果カラスの増加に繋がったとのこと。ゴミ出しルールを守れない人たちの責任は大きいです。

（カラスの巣と卵）

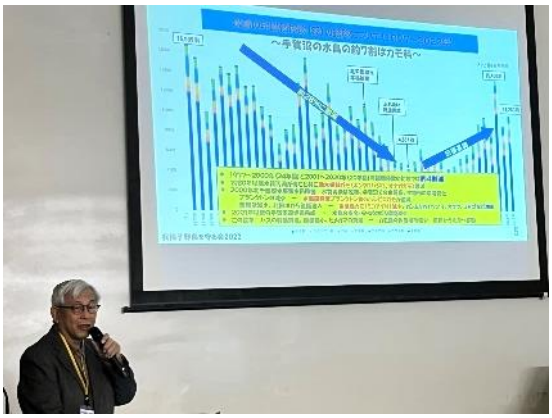
◆カラス研究をライフワークとしている柴田さんは、「カラスの常識」に則って行動しているカラスの立場に立ってみよう。**カラスの立場に立って考える**、それが、実はカラスのみならず人が暮らしやすい社会をつくっていくのではないでしょうかと話されました。

■最後に、お詫び申し上げます。講演時間は、子どもも対象としていましたので、元々短い時間を設定していたところ、一部動画が再生できないというトラブルが発生し、講演がしばしば中断したため、講演時間を延長いたしました。事前に機器の動作確認を入念にするべきところを皆さまに大変ご迷惑をおかけいたしました。講演後の参加者アンケートには「興味深い動画が全部見られなかったのが残念！」「もっともっとカラスのことを知りたい。時間がもともと足りなかった。」「第２弾を！」という要望が相次ぎました。乞うご期待ください。

「手賀沼の現状について」報告　千葉県水質保全課　湖沼水質浄化対策班　班長　渡邉 勝さん

手賀沼の水質変化について、有機物による水の汚れの程度を示す COD 値が昭和 54 年をピークに北千葉導水事業など様々な対策によって水質は大幅に改善されたが、**近年は横ばい状態**で、残念ながら国の定める**環境基準値に達していない**とのこと。沼に流入する汚れの多くは、家庭からの生活排水と市街地などからの排水。**家庭でできる浄化対策**のお話を伺い、参加者からは「家庭でできることが具体的にわかったので、今後心がけたい」との感想が寄せられました。また、今、手賀沼で繁茂している**外来水生植物の駆除**について、県の取り組みの紹介がありました。

「手賀沼の水鳥の最新動向」報告　我孫子野鳥を守る会　副会長　相良直己さん



我孫子野鳥を守る会では、毎月手賀沼の水鳥の個体数を定点観測し続けて 50 年！その貴重なデータから、最新の動向を報告。**1977 年に約 17000 羽いた水鳥が 2006 年には約 4800 羽まで激減**。その後も減少傾向の一途かと思いきや、**2007 年から 2022 年の調査**では、手賀沼の環境改善も影響し、**回復基調**にあるとのこと。参加者の皆さんがホッとしました。とは言うものの、「**69%を占めるカモ科の動向によって手賀沼の水鳥の増減**が決まる。変動の激しいオナガガモを除くと、**ほぼ毎年微増で推移**している。しかしながら、**2000 年以前と以後の各 20 年余を比較すると総個体数は約 40%減**となっている。**往時の回復には程遠い。**」とのこと。手賀沼の環境変化は水鳥の飛来数に様々な影響を与えています。人と野鳥の共存できる環境を守り、多くの水鳥が生息する美しい手賀沼を取り戻したいですね。